

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

| | | |
|------|----|---|
| ① 国語 | 22 | 人 |
| ② 算数 | 21 | 人 |
| ③ 理科 | 22 | 人 |

5 留意事項

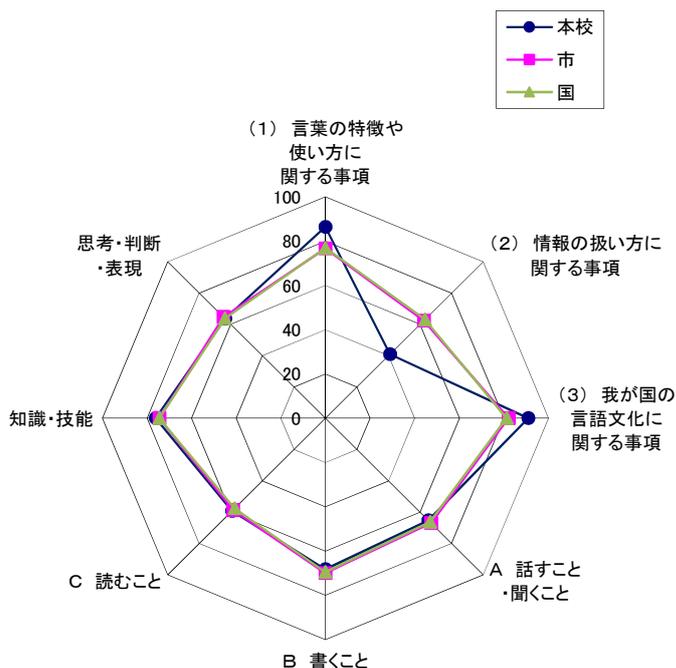
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 86.4 | 76.7 | 76.9 |
| | (2) 情報の扱い方に関する事項 | 40.9 | 62.4 | 63.1 |
| | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 90.9 | 82.1 | 81.2 |
| | A 話すこと・聞くこと | 65.2 | 67.0 | 66.3 |
| | B 書くこと | 68.2 | 70.0 | 69.5 |
| | C 読むこと | 59.1 | 58.6 | 57.5 |
| 観点 | 知識・技能 | 76.1 | 74.5 | 74.5 |
| | 思考・判断・表現 | 63.6 | 64.6 | 63.8 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

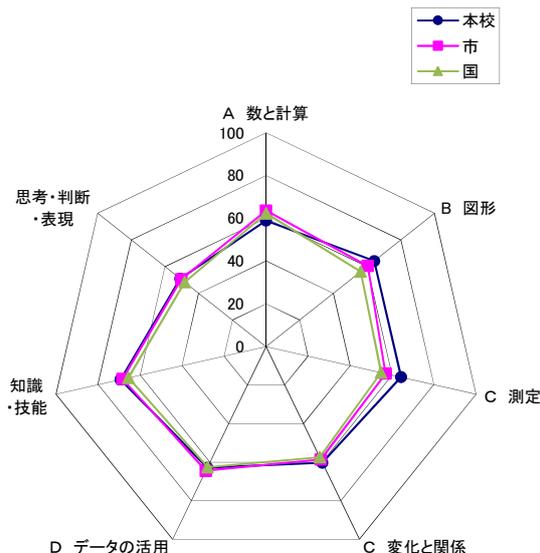
| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---------------------|---|--|
| (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は、市の平均を大きく上回った。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題はよくできていた。 | 引き続き、新出漢字を使って文章を書く活動や定期的なミニテストの実施を通して、学んだ漢字を正しく使う力を定着させていく。文の中で意味や使い方を考えながら書くことで、語彙の広がりや表現力の向上にもつなげていく。また、児童一人一人の習熟の様子を見取り、個別の課題に応じた練習や声掛けを行うことで、日常的に正しい漢字を使う意識を高めていく。 |
| (2) 情報の扱い方に関する事項 | 平均正答率は、市の平均を大きく下回った。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る問題の正答率は、市の正答率よりも21.5ポイント下回った。 | 国語以外の教科でも思考ツールを活用するなどして、自分の考えを整理したり表現したりする活動を取り入れることで、情報と情報の関係付けや語句と語句の関係付けを理解できるように指導していく。 |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は、市の平均を大きく上回った。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の正答率よりも8.8ポイント上回った。 | 言葉の知識を広げる手立てとして、様々なジャンルの本を読む機会を増やしていく。物語文や説明文だけでなく、詩や伝記、新聞記事など多様な文章に触れることで、語彙の幅を広げ、言葉の使い方や表現の工夫に気付けるようにする。また、読書後の感想交流やおすすめの本紹介などを通して、言葉に親しみ、自ら進んで読む姿を育てていく。 |
| A 話すこと・聞くこと | 平均正答率は、市の平均を下回った。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題の正答率は、45.5%であった。 | 自分の考えや話題を伝え合う際に、目的や意図に合ったものとなるよう検討したり、その内容を書いてまとめる活動を、国語だけでなく、様々な学習活動の中で取り入れる。 |
| B 書くこと | 平均正答率は、市の平均を下回った。 ○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題はよくできている。 ●内容のまとまりに基づいて文章の構成を考える問題の正答率は、54.5%であった。 | 自分の考えを書く活動を積極的に取り入れるとともに、自分の伝えたい内容を簡潔にまとめる活動を設けていく。日々の学習や読書活動の中で感じたことや気付いたことを文章で表す機会を増やし、自分の考えを筋道立てて書く力を育てていく。また、書いた文章を互いに読み合い、よさを伝え合う活動を通して、より分かりやすく伝える意識を高めていく。 |
| C 読むこと | 平均正答率は、市の平均を上回った。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題はよくできていた。 | 国語のみならず、他教科においても、文章の中心となる語や文を見付けて要約する活動を取り入れていく。内容の構成や筆者の意図を捉えながら読む力を養うことで、学習内容をより深く理解できるようにする。また、段落ごとの要点整理や、図表・資料を読み取る活動を通して、情報を取捨選択し、自分の言葉でまとめる力を高めていく。さらに、ペアやグループで考えを交流し合いながら読む活動を取り入れ、読み取った内容を根拠をもって説明する力を育てていく。 |

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域 | A 数と計算 | 58.9 | 63.6 | 62.3 |
| | B 図形 | 64.3 | 60.4 | 56.2 |
| | C 測定 | 64.3 | 56.9 | 54.8 |
| | C 変化と関係 | 60.3 | 58.6 | 57.5 |
| | D データの活用 | 62.9 | 64.4 | 62.6 |
| 観点 | 知識・技能 | 69.3 | 68.3 | 65.5 |
| | 思考・判断・表現 | 51.0 | 50.4 | 48.3 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

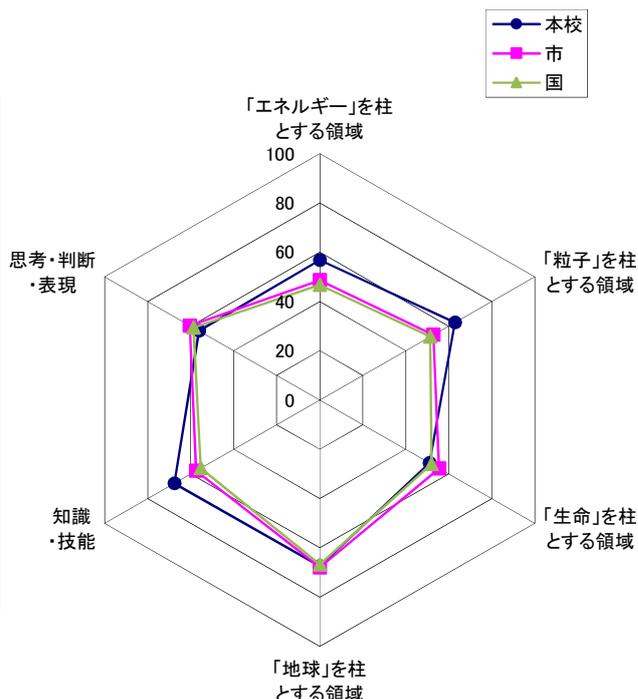
| 分類・区分 | 本年度の状況 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの |
|----------|--|--|
| | | 今後の指導の重点 |
| A 数と計算 | <p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉えることができるかどうかを問う問題では、正答率が76.2%と高かった。</p> <p>●分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題では、肯定回答が19.0%と低かった。</p> | <p>・朝の学習を利用して、異分数の加法などの計算を繰り返し取り組ませることで、基礎基本の向上を図る。</p> <p>・共通する単位分数を用いた問題など、類似した問題を解くことで、慣れさせる。</p> |
| B 図形 | <p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題では、正答率が85.7%と高かった。</p> <p>○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が71.4%と高かった。</p> <p>●基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が47.6%と低かった。</p> <p>●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題では、正答率が52.4%と低かった。</p> | <p>・基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する機会を増やすことで、説明する力を伸ばしていく。</p> <p>・平行四辺形作図において、コンパスで等しい長さを写し取ることが平行四辺形の性質につながることに気付かせるなど、作図の操作と図形の性質を確認しながら復習に取り組む。</p> |
| C 測定 | <p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○はかりの目盛りを読むことができるかどうかを見る問題では、正答率が81.0%と高かった。</p> <p>●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が47.6%と低かった。</p> | <p>・問題解決の方法を自分の言葉で表現できるように、考えを図式化したり式に表したりして説明する活動を増やし、様々な問題場面にも対応できる力を育てていく。</p> |
| C 変化と関係 | <p>平均正答率は、市の正答率をやや上回った。</p> <p>○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題では平均正答率は52.4%で、国の平均より高かった。</p> <p>●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる問題では、国の平均をやや下回るなどの課題が見られた。</p> | <p>・伴って変わる二つの量の関係を数式や図、表などを活用して視覚的に捉えられるように復習できる機会を設定し、理解を図る。</p> <p>・問題の意味や用語の意味の理解が不足していると考えられるので、丁寧に解説を加えながら復習に取り組む。</p> |
| D データの活用 | <p>平均正答率は、市の平均をやや下回った。</p> <p>○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題の正答率は高く、81.0%である。</p> <p>●棒グラフから項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題では、66.7%で理解がまだ十分ではない。</p> | <p>・複数のデータを関連付けて課題を解決する力を養うため、算数での学習だけでなく社会や総合の学習でも二つのグラフを関連付けて考えさせたり、複数の資料を比較したりする学習を取り上げることで、見方や考え方を広げられるようにする。</p> |

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 56.8 | 48.6 | 46.7 |
| | 「粒子」を柱とする領域 | 62.9 | 52.8 | 51.4 |
| | 「生命」を柱とする領域 | 51.1 | 55.5 | 52.0 |
| | 「地球」を柱とする領域 | 67.4 | 67.9 | 66.7 |
| 観点 | 知識・技能 | 67.6 | 57.5 | 55.3 |
| | 思考・判断・表現 | 56.1 | 60.4 | 58.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------|---|---|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均を大きく上回った。</p> <p>○電流が作る磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかを見る問題の正答率は、90.9%と高かった。</p> <p>●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかを見る問題の正答率は、31.8%と低かった。</p> | <p>・実験の結果を考察し、起こった事象の理由を考えたり、学んだことを実生活に結びつけて考えたりすることに課題が見られる。そのため、日常生活においても、理科学的な視点を大切にすることを意識させ、知識の定着や思考力の向上を図っていく。</p> |
| 「粒子」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均を大きく上回った。</p> <p>○水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の水の面積が減少した理由を予想し、表現をすることができるかどうかを見る問題の正答率は、90.9%と高かった。</p> <p>●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現をすることができるかどうかを見る問題の正答率は、54.5%と低かった。</p> | <p>・動画などのICT教材を活用し、実験の方法や手順について、視覚的に確認することで、確実な知識の定着を図る。</p> <p>・実験のまとめに加え、データをもとに考察する時間を設け、事実を整理する力を育てる。</p> <p>・発展的に様々な問題を取り扱い、問題文を読み解く力を伸ばしていく。</p> |
| 「生命」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は、72.7%と高い。</p> <p>●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は、13.6%と低い。</p> | <p>・実験を行うだけでなく、なぜそのような現象が起きたり、結果につながったりするのかについてじっくり考える時間を確保し、考察につなげられるようにする。</p> <p>・比較実験をする際には、そろえる条件と変える条件を確かめるとともに、なぜ条件を変えるかについて考えさせ、文章に表現できる経験を積み上げていく。</p> |
| 「地球」を柱とする領域 | <p>平均正答率は、市の平均をやや下回った。</p> <p>○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて問う問題の正答率は、81.8%と高い。</p> <p>○水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかを見る問題の正答率は、72.7%と高い。</p> <p>●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現できるかどうかを見る問題の正答率は、40.9%と低かった。</p> | <p>・知識をそのまま覚えるのではなく、実験結果からの考え方も含めて身に付けられるように、実験や観察の経過と結果を図や言葉を使って記録する学習活動を継続する。</p> |

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童が100%であった。日頃の学校生活での声掛けや児童指導の成果だと考えられる。今後も、いじめを無くしていけるような活動を学校全体として取り組んでいきたい。

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という問いや、「学校に行くのは楽しいと思いませんか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が100%だった。今後も日々の生活で楽しみや幸せを感じられるような学級経営を行っていききたい。

○「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という問いや、「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が100%だった。今後も友達と協力することの大切さや、人間関係をよりよくできるようなコミュニケーションの取り方の支援を行っていききたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いませんか」という問いや、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が100%だった。今後も身の周りの人たちだけでなく、間接的に関わる人たちや、地域の人たちのために行動することの大切さを伝えていき、自分にできることを考えていけるよう指導を継続していききたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いませんか」という問いや、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いませんか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が100%だった。今後も校内の教職員で情報共有を密に行い、児童一人一人に合った支援や指導を行っていききたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という問いに対して1時間以上読んでいる児童の割合は13.6%だった。読書の楽しさを伝えられるよう、家庭や図書館司書と連携し、児童が少しでも本と触れ合える機会を増やしていきたい。

●「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べる)ことができますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が86.3%であり、全国平均を3.5ポイント下回った。様々な教科で調べ学習や情報収集を行う時間を意図的に設定するなどの指導を継続して行っていききたい。

宇都宮市立上河内東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|--------------|--|--|
| 書く力を高めるための取組 | 学校全体で、児童が考えを深めたり伝え合ったりする力を育てるために、「書く活動」を計画的・意図的に授業や学習に組み込んでいく。 | 段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書くことができるかどうかをみる問題では、正答率そのものが低かった。自分の考えを言葉にして表す経験を重ねるなど、引き続き書く力を高める指導を継続していく。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|----------------------------------|---------------|---|
| 情報と情報との関係付けや、図などによる語句と語句との関係の表し方 | 概念の構造化と伝達力の向上 | 知識をバラバラではなく、因果関係、包含関係、対比関係などの構造として捉える練習をする。複雑な関係を視覚的に分かりやすく整理・伝達できるようにしていく。 |